

令和5年度 心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）

6月19日(月)、中丹管内の小・中学校、府立高等学校の生徒指導担当教員を対象に、下記の(1)～(3)を会議の目的として、心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）を開催いたしました。

- (1) 中丹管内における生徒指導の状況と課題を把握する。
- (2) 生徒指導提要の趣旨を理解する。
- (3) 問題行動や不登校等の諸課題の未然防止に向けての取組や研修の在り方を交流・協議する。

※『発達支持的生徒指導』をキーワードに講演や研究協議を通じて学びを深めました。

『発達支持的生徒指導』

特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に 全ての教育活動において進められるもの

【1】 課題提起

問題行動や不登校等、中丹管内の生徒指導の状況や要因等を踏まえ、『事後対応型』の生徒指導に加えて『積極的な先手型』の生徒指導の重要性を確認しました。特に、問題行動や不登校等の生徒指導上の諸課題の未然防止と適切な対応に向けて、『発達支持的生徒指導』の視点を踏まえた実践が大切であることを理解しました。

生徒指導提要のキーワード

- ・発達支持的生徒指導
- ・チーム支援による組織的対応
- ・教育課程と生徒指導の一体化



【3】 研究協議

【協議の柱】

生徒指導担当として、発達支持的生徒指導を推進するために他の分掌組織と連携し、どのような取組や研修を計画できるか。

研究協議では、まず自校の生徒指導の年間指導計画（方針）に、常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の視点が含まれているかを確認しました。

その後、協議の柱に沿って、個人 → グループ → 全体交流 の流れで、様々な取組のアイデアや他校の実践、学習指導に生徒指導の視点を取り入れること等、多様な考えから学びを深めました。



【2】 講演

立命館大学 大学院 人間科学研究科
特任教授・名誉教授 野田 正人 様
『生徒指導提要改訂の趣旨と要点
～発達支持的生徒指導を推進するために～』



野田様の講演から、「生徒指導提要」を、生徒指導に関する学校・教職員向けの「基本書」として活用することや生徒指導提要改訂の背景や趣旨等、様々なことを学びました。

- 課題未然防止教育や発達支持的生徒指導である常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の充実を図る。
- 教育課程と生徒指導の一体化を目指し、全教職員が一致して取組を進めることが必要である。
- 児童生徒理解としてのアセスメントは重要であり、児童生徒の課題を、「生物学的要因」「心理学的要因」「社会的要因」の3つの観点からチームで検討し、統合する。（SCやSSW等の活用）
- 適切なアセスメントに基づいたプランニングを行い、その効果を検証し、再度アセスメントにつなげる。

【参加者の振り返り】

- ◇ 自校の学校教育計画を改めて見直すと、生徒指導の実践上の視点が不十分であると感じたので、今年度中に修正したい。また、他の分掌組織と連携して、自校の実態に応じた取組を模索していきたい。
- ◇ 夏季の校内研で、生徒指導提要を周知する機会を設定し、発達支持的生徒指導の視点から学級経営や学習指導について全教職員で協議したい。
- ◇ プロアクティブな生徒指導を行うためには、子どもと関わる全ての教職員がチームとして機能する必要がある。子どもの「見立て」を丁寧に適切に行う等、児童生徒理解を基盤として、様々な教育活動を通して、子どもの成長を支えていきたい。
- ◇ 発達支持的生徒指導の充実を目指す中で、日々の授業を大切にすることが重要であると学んだので、学習研究部・研究推進部と連携し、授業づくりや教材研究について全校の教師で協議していきたい。

まとめ

今後、各校で生徒指導担当者を中心に、生徒指導の年間指導計画に常態的・先行的生徒指導の視点を明確に位置付けることや、学習指導と生徒指導を相互に関連付けながら両者の充実を図ること等、各校の実態に応じた取組や研究を推進し、生徒指導のより一層の充実を図りましょう。